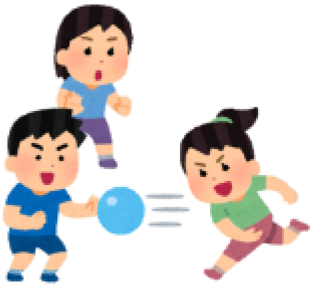
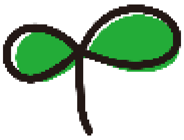
特活塾通信

特別活動研究会　会長　鷲田 裕
松陽小学校　校長
羽束師小学校　教頭　内野 英教

令和４年１１月２９日（火）第１回特活塾が開催されました。

開会の言葉（特活塾の趣旨の説明）
向島藤の木小学校　居林教頭先生
紙芝居を使って、楽しく！分かりやすく！！





低学年の学級会について
川岡東小学校　小泉先生
始めよう！学級会
～はじめての学級会の進め方～
【学級会をはじめるために】
①準備物
②遊びのバリエーションを増やす。
③オリエンテーションをする。

すてきなクラスにするためのかかりかつどうをしよう
2年〇組オリジナルうんどう会をしよう
おもちゃフェスティバルをしよう
きらめきパーティーをしよう
がんばったね会をしよう
2年〇組ファイナルパーティーをしよう
2年

具体的な内容を、分かりやすく、たくさん紹介していただきました♪

高学年の学級会について
八瀬小学校　平尾先生
学級活動のみりょく☆
ただただ単純に…自由！
・決まりがない！・おしつけがない！
・まちがいがない！・ゴールがない！
でもでも、なぜか…感動する！

最初から「みんなで！」
全員がエントリー　一人一人
が伝える　全員の思いを知る
さっきは言えなかったけど…
一人一人の思い伝わるから
迷う！悩む！

最後までみんなで！

まとめ
特別活動研究会 会長 鷲田 裕校長先生
「せっかく出会えたから、まずは、3人1組を作って、自己紹介と好きなものを伝えましょう。」　和気藹々♬

ありがたいことに☆彡
質疑応答でたくさんの質問をいただきました。
Q&Aは次のページより

Ｑ＆Ａ　特別活動研究会の先生方より
特活塾参加のみなさんへ

Q①提案理由の決め方

Ａ１⇒　提案理由は、決めるというよりも、子どもたちから募ります。議題ポストを常設し、話し合いたいこと（議題）がある時、提案カードに書いて投稿するように促します。提案カードには提案理由を書く欄も設けているので、子どもたちの思いが書かれており、聞き取りをする中で、担任とまたは司会グループと一緒に文章にしていきます。
例：（現状）今、クラスはこんな状態です。→だから、〇〇をすることで、△△（状態：もっと仲を深めたい、協力関係を築きたい　など）になりたい。→そこで〇〇を提案します。
　低学年や、子どもたちからの提案が難しい場合は、子どもたちとの何気ない会話からヒントを得て、「〇〇したら面白そうだね。学級会で話し合ってみようか。」と担任から投げかけます。そこで提案理由も考えていきます。

Ａ２⇒　基本的に「議題」があって「提案理由」を考えるという順番ではなく「～にしたい／～になってほしいから（提案理由）、 〇〇（議題）について話し合う。」という考え方です。
学級会を行うにあたって、「なぜ話し合うのか」の明確な目的や理由があり、そのために話し合うのだという意識を子ども達全員がもって臨む必要があります。そのため、後付けで「提案理由を決める」というよりも、「議題の目的や理由・根拠を語る」のが提案理由と捉えます。
【具体的には】
私の場合は以下のような内容で、議題と提案理由を書いたカードを全員に書いてもらうようにしています。ここから司会グループが話合い，その時の学級にぴったりの議題・提案理由を選びます。
①学級の現状分析（学級目標に照らして）
②学級の課題や良い状態をよりよくしたいことの発見
③そのために何をする／何について話し合うべきか
④それをする／話し合うとどのような学級になることが期待されるか

Q②グループ活動を入れることについて

Ａ１⇒　グループで話をする時間をとるのはとても良いと思います。自由な会話から、思わぬアイデアが出ることがあります。ただ、目的が挙手して発言しない又はしにくい子がいるから、であれば、そして、その子がグループでは考えを言えるのであれば、「〇〇さん、その意見すごくいいからグループの代表として発言してほしい。」「(別の児童が全体発表するのであれば）〇〇さんが、こんな意見を言っていました。グループでも、いいな、と思ったので紹介します。」など、グループの子が働きかけられるといいですね。考えを発表するのは勇気がいりますが、正解・不正解などないし、学級会で発言することって、担任が思っている以上に、クラスのみんなに受け入れてもらえた～という実感がもてるようなのです。
「考え中です。」でも、「〇〇と□□がいいと思ったのですが、まだ迷っています。」「△△さんの話を聞いて□□がいいと思いました。」でもいいので、その子の声が聞けるように働きかけています。

Ａ２⇒　小グループでの話合いは、学級全体での話が停滞したり、逆にどちらにすべきか意見が分かれて決定に葛藤が生まれたりする場合に取り入れることがあります。ただし、小グループでの話合い→代表者の発表を基本の形にすると、教科の学習の意見発表会のようになり、お互いに練り上げる話合いにはなりづらいです。そのため、要素として取入れつつも、あくまで「一人一人の思いを受けとめ、全員で考え話す」ということを大切にできれば…と考えます。(ただし学級会に慣れておらず不安の大きいクラスであれば、練習として１回くらい入れても良いかと思います。)
※小グループでの話合いは学級活動（１）ではなく（２）（３）ならば大いにありです！

Q③学級活動は学年統一しなくてもいいのか。（やる回数や内容）

Ａ１⇒　学級活動は年間３５時間（１年生は３４時間）。（１）（２）（３）に分かれていて、内容項目もかなり多いです。学級会と実践活動、係活動を合わせて（１）なので、学級会じたいは７～８回が相場だと思います。前の指導要領では（１）（２）の時数も学年によって決まっていました。（その頃は（３）はありませんでした。）現行では細かい記述がないので、学級裁量なのかな、と思います。（違っていたらすみません。）
　基本、学級会はクラスの児童からの提案をもとに計画していくので、学年で議題を統一しなくて良いと思います。ただ、全くやらないクラスがあると、学年差が出るので、音頭をとって同じタイミングでやるようにしています。学級の雰囲気が全く異なってきます！

Ａ２⇒　「学級」活動なので、回数や内容が完全に全て一致していなくてもよいです。その時々の学級の実態に応じて児童が課題意識や意欲をもって考え、話して取り組めることが大切です。
一方で、現実的には学年で１クラスだけが突っ走ってしまうのは良くないもの。そのため、学年主任の先生に相談をしたり、学年団である程度合わせたりする方が良いのではないでしょうか。また、学年で学級会の学年バージョン（学年会？）をして大きな取組に向けて話し合うなどもありです。

Q④「まとめる」のところで時間オーバーしてしまう。

Ａ１⇒　「まとめる」は、基本、賛成意見の〇の数で決めたらよいと思います。かつて杉田洋先生（特活界の大御所）は、「学級会の場で理由とともに発言することは立派な意見であり、〇の数は話し合った結果である。〇の数で決めることと、多数決できめることは、全く次元が違う。」とおっしゃっていました。
　納得解を求めるのであれば、反対意見が出ていないもの（出ていたとしても解決意見をみんなで考えられたら OK）、キーワードに合致しているものに決めたら良いと思います。事前に、司会グループと何を大事にして決めるか話し合っておくと、司会が上手に導いてくれることもありますよ。

Ａ２⇒　低学年であれば、「出し合う」から丁寧に学級会の進行の仕方を身に付けさせる必要があります。慣れてくれば「出し合う」の内容の短冊をはじめから黒板に掲示しておき、追加や修正がないかを確認した後にすぐ「くらべ合う」に入ることもありです。どのように「まとめる」（決める）のかを児童も教師も明確にし、本題から外れないように話し合えるようにしています。話合いの指標（決定にあたっての視点）は「提案理由」に基づいて考えるようにします。

Q⑤低学年からどう育てたらいいのか。

Ａ１⇒　低学年は、とにかく「やりたい！」を大事にしてほしいです。意見を通す子がいても、「やりたい！」→「みんなでできた！」→満足♪→「前回は叶えてもらったから、今度はみんながやりたいことを応援するよ～」とシフトしていきます。日々の学級の雰囲気にもよりますが。

Ａ２⇒　低学年では、どのように話合いを進めるのかの基本の形が身に付けられるようにします。自分の意見を言うことに不安がある児童が多い場合には、別途帯時間などに小グループでのワークを取り入れたりするなどして、話すことに慣れられるようにします。簡単で分かりやすい議題から始め、「楽しかった」「できた」「良くなった」「またやりたい」などの前向きな気持ちが育つようにします。

Q⑥（学級会の運営を）子どもにのびのび自由にさせるときに、大切にしていること。

Ａ１⇒　時間をとにかく意識させます。話し合いではリミットまでに解決すること！実践活動に向けての準備も、この日までにどこまでやっておくかを明確にしておくと、休み時間を上手に使って仕上げてくれます。のびのびとは、何でもありではなく、創意工夫の上に成り立つものと思います。

Ａ２⇒
・全員を大切にすること。少数意見や反対意見も、大切な要素として受け止めて考える材料とする。
・お互いを認め合い、意見が違う＝嫌いなどではなく、違うことも「面白さ」として捉えるようにする。
・進行についての不安が躓きにつながらないように、支援や手立てを用意しておく。
　（どの授業でもしていることですが、学級会でも考え方は同じ♪）

Q⑦本当にこれみんな話し合いたいかな。という議題の時がある。みんなが話し合いたいと思える仕掛があれば・・・

Ａ１⇒　何気ない会話の中で、「今度の学級会でこれ（議題）について話し合ったらどうかなと思うんやけど、どうかな。」とリサーチしてみてはどうでしょうか。本当にやりたいときは食いつき方が違うし、学級会ノートに書く意見も想像を超えたものを出してきます。

　よくある例：いつもお楽しみ会でドッジボールばかりすることになってしまう。→楽しいんやけど、やりたい気持ちも分かるけど、毎回一緒やん！→「やったことのない面白いドッジボール」を考えようや！→コートを工夫する？ルールを工夫する？→みんなで話し合おう！！アイデア出し合ったらきっと面白いで。

Ａ２⇒　「完璧な学級会」をすることを目標としない。学級会が始まってからも、一見上手く話しているようでも本質的でなく、「あれ？」と思うようであれば、担任から「本当にこれがみんな話し合いたかった？」「このまま進行して、最後にクラスが良くなりそう？」と率直に問いかけることも。同じ目線で考えると、子ども達も肩の力が抜けて良い話ができるようになったりする場合もあります。議題の集め方や、集める時の声掛けの仕方も工夫して、「みんなが話し合いたい本当の議題」が出てくるようにする。どんなことがしたいか、どんな風になってほしいかなど具体的にイメージさせて考えるようにすると上手くいきやすいように思います。

Q⑧児童からＡ案Ｂ案が出たときに、間を取って（折り合いをつけて）Ｃ案となるといいが、多くの場合は、自分の意見を通したい場合が多い・・・多数決になった時の少数意見の生かし方などが知りたいです。

Ａ１⇒　④で書きましたが、意見として発表した○は多数決ではないので、○の数で決めたら良いです。折衷案がみんなの納得するものであるならそれに決まることが一番ですが、納得できないからそれに決まらないのでは。もちろん、「折衷案を考えることもできるよ。」と担任が提案しても良いと思います。経験がないと出ないので。

　少数意見は、とにかく褒めまくります。終末の先生の話の時にでも、「今回はすることにならなかったけど、○○さんが言っていた△△って面白そうやね。先生、すごく興味をもったので、明日の休み時間、やりたい人でやりませんか？」と誘ってみたり、「○○さんが言っていた△△、すごく良かった。本当にみんなのことを考えているのが伝わってきて、すごく嬉しかったよ。」と勇気づけをします。言ってよかった～と思えるようにします。その勇気が別の子に伝播し、学級会でミラクルが起こるようになっていくな～と実感しています。

　一番悲しいのは、みんなの顔色をみて日和見な意見を言うことなので。そんな学級会、話し合う必要がなくなってしまいます。

Ａ２⇒

・「全員の思いを大切にする」ということを学級全体で共有しておく。
・安易に最後は多数決ね！とはしない。ゆっくり思いを合わせて練り上げる工程が必要。
・「○○に決まりそうだけど、△△にしたいと言っていた人の思いはどう生かしたらいいだろう？」「△△がいいと言っていた人はどんな形なら、○○をしていけると思う？」などの声掛けをしたりしています。

Q⑨意見が出なくなった時、いつ担任（授業者）が介入したらいいのか。よいタイミングは

Ａ１⇒　ぜひノート書記に聞いてみてください。あらかじめ発言するよう伝えておく必要がありますが、「ここまでの話し合いで出たのは～。今迷っているのは～。○○と△△についてもう少し話し合ってみませんか。□□さんが～と言っていたのですが、もう一度意見を聞かせてください。」など経緯をもとに言ってもらうことで、新たな突破口が見えてきます。

　あとは、近くの人と話す時間を設けます。担任も、助言した方がいいと思ったら入れれば良いです。担任の助言は次の学級会の時の誰かの言葉になっていることがあります。担任をまねて軌道修正をしてくれます。

Ａ２⇒　介入のタイミング

・話が盛り上がりにくい時
・意見は出ているが上辺だけの話になっている時
・意見は出ているが意見発表会のようになってつながりが見られない時
・どちらがいいか迷いや葛藤が生じた時
・掘り下げると深まりそうな意見が出た時
・話合いが本筋からそれていった時
・具体的なイメージが持てずに停滞した時　など

A（アンサー）に関しては、あくまでも、１つの例ですので、ご参考にしていただけたら幸いです。